

平成 27 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ー ト

1 学校教育方針

- (1) 地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる
- (2) 学校と地域の活動の中で、自律の精神を養い、規範意識と自己統制力を育てる
- (3) 学校と地域の活動の中で、豊かな心を培い、敬愛と協調の態度を育てる

2 目指す学校像と本年度の重点目標

目指す学校像	本年度の重点目標
地域の学校	地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する
自ら学ぶ学校	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成し、学力の向上を図る
心豊かな学校	共同的な学びの中で豊かな人間性を育てる

3 教育指針

人みな使命あり

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・今年度の学校自己評価については、それぞれの重点目標に対して、各部学年の目標が明確に表されて分かりやすい。
- ・この学校評価の他に、保護者へのアンケートも実施され多角的に評価することができている。
- ・学校の課題を明確にして、次年度へ向けての課題解決の指標となる学校評価となっている。

6 総合的な学校関係者評価

- ・村岡高校が進められている地域創造教育が、地域とのつながりやふるさと教育をも担っている。香美町の進める教育と合致しているので、高校として取り組まれていることが連携中学校の生徒の進路に関わり、志願者増となっているのではないかと。
- ・香美町が推進している、ふるさと教育を核にして、小・中・高と系統立てて行い、特に小学校と高校の連携により、小学校の時から地元の子どもをどのようにして地元の高校へ導くか、連携することによってそれを可能にするよう取り組んでいただきたい。

4 学校自己評価結果【 A (4)…よくできた B (3)…できた C (2)…あまりできなかった D (1)…できなかった 】

評価項目		評価	A	B	C	D	評価と改善プラン	学校関係者評価	
I	地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する							<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携は、様々な活動で行われており、関わられる人や地域の方々にも好感を持たれている。特にイベントなど、参加者の方からも、高校生のボランティアは高い評価を受けている。 ・村高発地域元気化プロジェクトだけでなく、地域創造系・アウトドアスポーツ系においてもそれぞれの分野において、地域に貢献できる取り組みが顕著に現れ、地域から頼りにされている。 ・地域との連携による活動が生徒の成長を促している。今後も様々な機会を捉え、生徒の成長へつながる、地域連携の方策を検討し継続してください。 	
	①総務部	PTAとの連携を強化し、地域の活動に自主的に参加して地域活性化に取り組む	3.2	4	11	1	PTA、地域ともに協力して活動が出来た。今後も地域との連携を強化していく必要がある。新しい活動も視野に入れる時期に来ている。		
	②教務部	「アウトドアスポーツ系」の教育課程を進路実現との整合性から再考する	3.0	4	8	4	本年度取りかかったカリキュラムを、次年度より実施。後追いになっていることは否めない。		
	③生徒指導部	地域行事・福祉体験活動への参加を通じて社会人としての実践力を育てる	3.4	8	7	1	多方面にわたって地域での活動を多く行った。今後も継続して地域と協働して活動していくことが重要である。		
	④進路指導部	希望者へのインターンシップを実施し、キャリア教育を推進する	3.5	8	8		就職希望者のみを対象としたが、理美容も夏の期間に実施したい。		
	⑤保健部	疾病予防、また早期発見に向けて、学年、家庭との連携に取り組む	3.0	1	14	1	保健だよりなどで、疾病予防等を生徒や家庭に呼びかけたが、さらに早い時期に行えるように準備をしたい。		
	⑥1年	総合的な学習の時間や地域学入門での個々の役割を責任をもってやり遂げる	2.9	2	11	2	1		個々の役割をしっかりと自覚させるような指導を行ったが、まだ不十分な点もあるので、継続して指導していきたい。
	⑦2年	様々な体験を通して、地域を知り、地域と連携を図り、地域へ貢献する生徒を育てる	3.1	4	9	3			地域に関わる様々な体験を通して得た知識や態度を生かし、今後はさらに個々の意識を高めて地域に貢献できるようにする。
⑧3年	総合的な学習の時間、地域探求で学んだことを発表の場を通して確認し、進路実現への糧となるよう指導する	3.5	8	8			各教科の先生方の協力の下、ほぼできたと思う。今年度様々な場面で発表する力は発揮できたと思います。コミュニケーション能力の育成が必要だと改めて感じることができた。		
II	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成し、学力の向上を図る							<ul style="list-style-type: none"> ・村高フォーラムにおける生徒の発表を見て、一般の人たちにも分かりやすく丁寧な説明がなされ、実体験に基づいているからか、発表に力強さを感じた。 ・基本的な生活習慣や学習習慣は家庭との連携を図って推進することが大切、親元を離れて生活している下宿生の指導については大変でようが指導体制を整えて頑張ってください。 ・地域創造類型3期生の卒業生の進路実績は素晴らしい。高い進路意識を早くから確立させる指導ができるよう進路指導を充実させてください。 	
	①総務部	総合的な学習の時間や諸活動に参加し、その経験をまとめ課題等を発表する能力を養う	3.4	7	8	1	活発に活動ができたが、まとめの発表の時期などを再考する必要がある。慌ただしい中での準備であるが、1年間を通して自らが活動した内容は、自信を持って発表できている。		
	②教務部	教務規定の一部改訂を行い、学ぶ意欲を高める	3.1	4	10	2	多様な生徒の入学により、履修、評価、公欠等の規定の見直しを次年度までに間に合わせたい。		
	③生徒指導部	班討議(ワークショップ)のスキルを学ぶリーダー研修会を積極的にを行い、生徒の自主性・自発性や自律性を培う	3.3	7	6	3	リーダー研修会における班討議(ワークショップ)は充実したものとなった。今後は全クラスで班討議を実施できる体制を作っていくことが大切である。		
	④進路指導部	進路検討会・面談を通して多角的な視点から自分の進路を考える	3.5	8	8		進路・学年中心に全職員の協力を得てきめ細かな指導を行った。一人一人の希望に添った指導に時間が必要。		
	⑤保健部	予防と治療の大切さなど、疾病に対する正しい知識を身につける	3.0	2	12	2	保健だより等で病気への知識や、予防対策などを知らせるようにした。保健委員など生徒を使った啓発活動などできると良い。		
	⑥1年	家庭学習の習慣を身につけさせることにより、基礎学力の定着を図る	2.4	1	6	7	2		SHR等の時間を有効に活用することが出来なかったため、次年度は小テスト等を実施することにより、学習習慣の確立を図りたい。
	⑦2年	進路実現に向けて、進路目標の確立と学力の向上を図る	2.9	4	7	5	SHRで朝の学習、家庭学習の充実を図るよう小テスト等を行った。個人面談の充実を図り個々の進路指導を充実させると共に、集団で取り組める進路実現の体制を強化したい。		
⑧3年	SHRでのスピーチ、個人面談を通して、自分の意見を述べ、他の意見を聞くコミュニケーション能力の育成に努める	3.6	9	7			入学時は自己主張がほぼできない学年だったように思う。学年、クラスだけでなく各教科担当の協力で、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が向上した。		
III	共同的な学びの中で豊かな人間性を育てる							<ul style="list-style-type: none"> ・今の高校生は精神的に幼い生徒が多い中、生徒への手厚いフォローは村岡高校の特徴でもある、切り捨てるのではなく、すくい上げる教育で生徒の指導を推進してください。 ・生徒を全国募集することにより、多様な生徒も入学する状況での指導は大変ですが、村岡高校の一人一人を大切に指導をさらに進めてください。 ・学校教育全体の中で生徒に社会性を身につけさせることはもちろんだが、地域との連携の中で、地域によって育めるよう協力体制を整える工夫をしてください。 	
	①総務部	諸活動に学校全体で取り組み、地域への理解と連帯を深める	3.4	7	9				地域と連携した活動ができていると思うが、現在の活動を今後どう発展させていくかを考えていく必要がある。
	②教務部	図書館を学習活動の場として活用できるように環境整備を行い、学ぶ集団の形成を目指す	3.2	4	11	1			図書館の管理のため、図書室掃除監督の担当を図書係の教員にしてもらえるよう依頼。図書室の模様替えをしたので、新しい配置図と進路に関わる本を中心に活用情報の発信に力を入れたい。
	③生徒指導部	生徒が積極的に参加する行事(学校祭等)を効果的に実施し、成就感を体得するとともに協調性を培う	3.4	8	7	1			生徒会を中心に学校行事を主体的に取り組み大きな感動を生んでいる。さらに生徒1人1人が主体性と協調性を、体得するような取り組みを進めていく。
	④進路指導部	進路の手引きの先輩の合格体験記を通して自分の進路について考える	3.3	5	11				進路の手引きを活用して生徒へ情報提供を行った。次年度は、先輩から後輩へ伝える視点を評価項目に入れる。
	⑤保健部	教育環境の整備をはかるため、生徒・職員全体での清掃美化活動を徹底する	2.8	1	12	2	1		清掃区域や班分けなど工夫して美化活動を行ったが、少ないスタッフでどう管理していくかさらに見直す必要がある。
	⑥1年	HR活動や学校行事などを通して、お互いを認め助け合える人間関係の構築を図る	2.5	2	7	6	2		生徒同士の信頼関係を築くよう指導をしたが、クラスの一人としての自覚が十分でない面もあった。継続的に指導していきたい。
	⑦2年	他人を思いやり、助け合える人間関係を育て、中堅学年としての自覚を高める	2.9	2	11	3			HR活動、学校行事などを通じて他者を理解し、よりよい人間関係を築けるよう指導した。来年は最高学年として社会を意識した行動ができるよう指導に当たる。
⑧3年	各種行事を通して各自の役割を自覚でき、級友との作品の創作の中で一体感を実感できる集団の形成を目指す	3.3	6	9	1		リーダーを1年次より複数育ててきたことにより、3年次では各部門の指導の下、球技大会、文化祭、体育祭などは大成功に終えることができた。		